

第12期末 (2019年2月12日)

基準価額 9,907円

純資産総額 544百万円


第11期～第12期  
(2018年8月14日～2019年2月12日)

騰落率 △9.9%

分配金合計 0円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

 0120-762-506 (コールセンター)

受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。

 <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

NISSAY  
ASSET MANAGEMENT

東京都千代田区丸の内1-6-6

# ニッセイ米国株 テーマローテーション ファンド(3ヵ月決算型)

【愛称】 さきよみ

追加型投信／海外／株式

## 交付運用報告書

作成対象期間:2018年8月14日～2019年2月12日

第11期(決算日 2018年11月12日)

第12期(決算日 2019年2月12日)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「ニッセイ米国株テーマローテーションファンド(3ヵ月決算型)」は、このたび第12期の決算を行いました。

当ファンドは、「TCWファンズⅡ-TCWテーマローテーション株式ファンド」への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で運用報告書(全体版)をダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【ダウンロード方法】上記ホームページ→ファンド検索→ファンド名入力→ファンド詳細ページ→運用レポート→運用報告書(全体版)

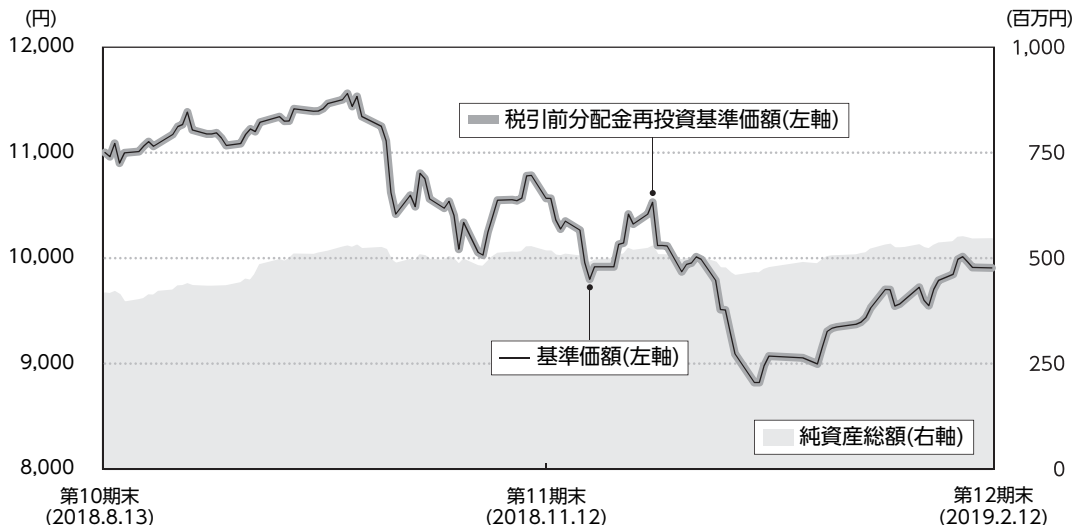
UD FONT

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

# 運用経過

2018年8月14日～2019年2月12日

## 基準価額等の推移



第11期首	11,001円	既払分配金	0円
第12期末	9,907円	騰落率(分配金再投資ベース)	△9.9%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前作成期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。以下同じです。

## ■基準価額の主な変動要因

当作成期初以降、米景気の拡大基調や米企業の決算が概ね良好であったこと、北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉における米国とメキシコの大筋合意などから株価が上昇したことを受けて、基準価額も上昇して始まりました。しかし当作成期半ばは、米金利の急上昇や米中貿易摩擦への懸念などにより株価が急落したことから基準価額も急落し、その後も原油価格が下落基調となる中、不安定な展開となりました。

当作成期末にかけては、米中対立の懸念緩和に加えて、米金融政策が利上げ姿勢から緩和姿勢へ転換するとの見方や底堅い企業業績などを背景に株価が反発したことから、基準価額も上昇しました。

## 1万口当たりの費用明細

項目	第11期～第12期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	69円	0.663%	$\text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ <p>期中の平均基準価額は10,352円です。</p>
(投信会社)	(22)	(0.216)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(45)	(0.433)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	( 1)	(0.013)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	1	0.006	$\text{その他費用} = \text{期中のその他費用} / \text{期中の平均受益権口数}$
(監査費用)	( 1)	(0.005)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	( 0)	(0.000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・ 借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息</li> </ul>
合計	69	0.668	

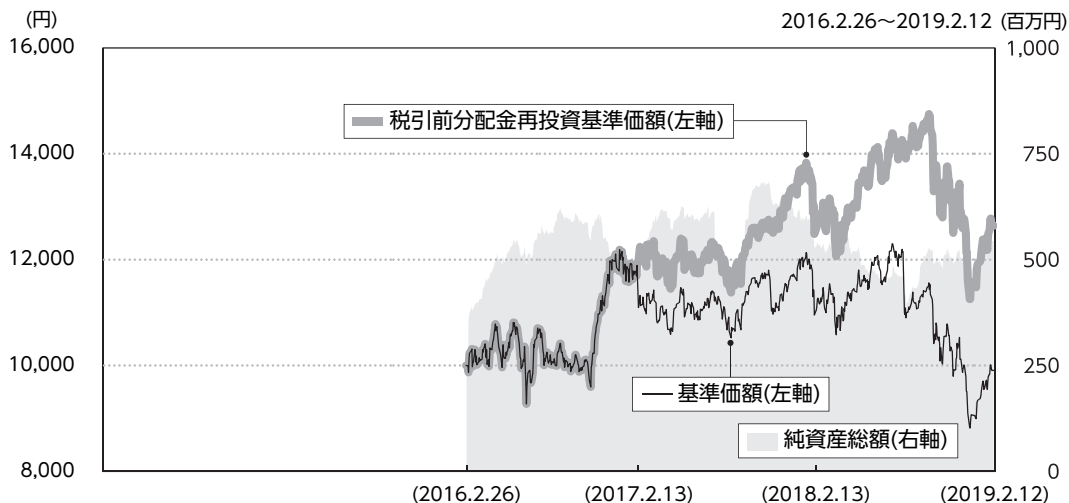
(注1) 作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている外国投資信託証券が支払った費用を含みません（マザーファンドを除く）。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 当ファンドの設定日は2016年2月26日です。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、設定時の基準価額にあわせて指数化しています。

(注3) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

決算日		2016年 2月26日	2017年 2月13日	2018年 2月13日	2019年 2月12日
基準価額（分配落）	(円)	10,000	11,096	11,048	9,907
期間分配金合計（税引前）	(円)	－	900	600	1,300
税引前分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	－	20.0	5.0	0.4
参考指数騰落率	(%)	－	24.0	10.7	6.1
純資産総額	(百万円)	245	444	531	544

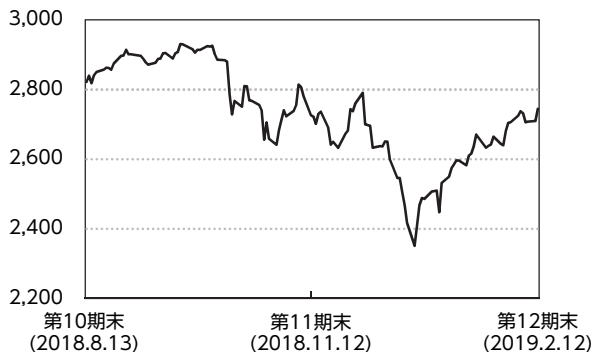
(注1) 参考指数はラッセル3000インデックス（配当込み、円ベース）です。ラッセル・インデックスに関連するトレードマーク、サービスマークおよび著作権は、ロンドン証券取引所グループに属する会社に帰属します。インデックスは資産運用管理の対象とはなりません。またインデックス自体は、直接投資の対象となるものではありません。以下同じです。

(注2) 設定日の基準価額は当初設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

## 投資環境

## ■米国株式市況

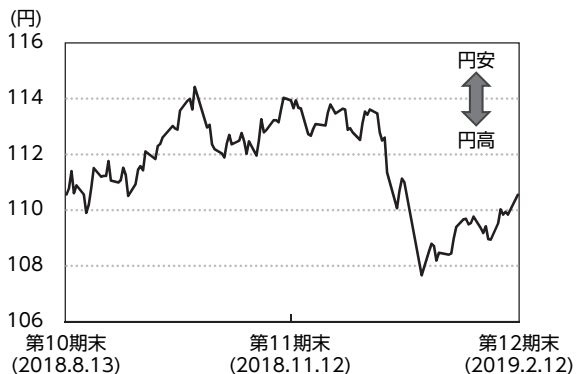
【S&amp;P500株価指数の推移】



(注) 指数はブルームバーグのデータを使用しています。

## ■為替市況

【米ドル/円レートの推移】



(注) 為替レートは対顧客電信売買相場仲値のデータを使用しています。

米国株式市場は、当作成期を通じて見ると下落しました。

当作成期初は、米景気の拡大基調や米企業の決算が概ね良好であったこと、NAFTA再交渉における米国とメキシコの大筋合意などから、株価は上昇して始まりました。しかし当作成期半ばは、米金利の急上昇や米中貿易摩擦への懸念などから株価は急落し、その後も原油価格が下落基調となる中、不安定な展開となりました。

当作成期末にかけては、米中対立の懸念緩和に加えて、米金融政策が利上げ姿勢から緩和姿勢へ転換するとの見方や底堅い企業業績などから、株価は反発しました。

為替市場は、当作成期を通じて見るとほぼ横ばいとなりました。

当作成期初以降、米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げ継続が引き続き意識されたことや、日米金利差が拡大したことなどから、米ドル高円安が強まりました。

しかし12月に入ると、株式市場の急落を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、米ドル安円高の展開に転じました。

当作成期末にかけては、米金融政策が利上げ姿勢から緩和姿勢へ転換するとの見方などを背景に、米インフレ圧力の強まりが意識されたことなどから、米ドル高円安となりました。

## ポートフォリオ

### ■当ファンド

外国投資信託証券への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

### ■TCWファンズII-TCWテーマローテーション株式ファンド

※ TCWアセット・マネジメント・カンパニーの資料（現地における当作成期末の前営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

徹底した調査・分析に基づき、短期（6ヵ月～1年程度）、中期（1年～3年程度）、長期（3年以上）と時間軸の異なる複数の投資テーマを選定し、各投資テーマに関連する企業の中からボトムアップ・アプローチで組入銘柄を厳選しました。

当作成期末時点での業種配分は、組入比率の高い順に、情報技術（27.8%）、一般消費財・サービス（15.9%）、資本財・サービス（12.4%）としています。

（注）業種はGICS分類（セクター）によるもので、比率は対組入株式等評価額比です。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

時間軸および投資テーマ別の組入比率は以下の通りです。

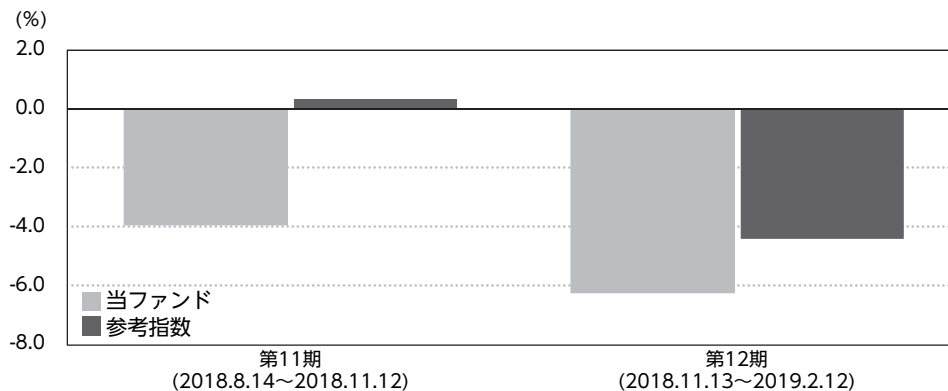
時間軸	投資テーマ	比率	注目点
短期	鉄道	12.4%	米国の景気拡大が続いており、物流が活発化してきています。中でも特に鉄道輸送の重要が高まっており、恩恵を受けると考えられる鉄道会社に着目します。
	ボラティリティ	11.1%	市場の高いボラティリティ（変動）により恩恵を受けると考えられる金融機関に着目します。
	企業の設備投資	9.7%	景気堅調や法人税率引き下げを受け、多くの企業が高水準のキャッシュフローを保有しています。これらの企業が年内に予算を消費するために大規模な設備投資を検討しており、これにより恩恵を受けると考えられる企業に着目します。
	アパレル企業のリバウンド	8.2%	アパレル企業の売上がリバウンドすると予想しており、株価の反発が期待できる企業に投資を行います。
	インカム	7.6%	公益企業のような安定したインカム収入を生む企業に投資を行います。
中期	AI革命	26.0%	AI革命から恩恵を受ける企業に着目します。
	E-Commerce向け倉庫	8.0%	E-Commerce向けの流通センターを保有する不動産関連企業に投資を行います。
長期	医療の技術革新	11.6%	免疫療法、遺伝子療法など革新的な医療技術や新薬を開発中の企業に着目します。
	未来の自動車への期待	5.4%	技術革新が著しい自動車関連企業に注目します。特にドライバーの安全運転支援、電気自動車、自動運転技術等を提供する企業に着目します。

（注）投資テーマはTCWアセット・マネジメント・カンパニーの分類によるもので、比率は対組入株式等評価額比です。

■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざしました。

参考指数との差異



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

当作成期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は-9.9%となり、参考指数騰落率（-4.1%）を下回りました。これは、一般消費財・サービスセクターでの銘柄選択等がマイナス寄与したことなどによるものです。

分配金

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案した結果、見送らせていただきました。なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	第11期	第12期
	2018年8月14日~2018年11月12日	2018年11月13日~2019年2月12日
当期分配金（税引前）	-	-
対基準価額比率	-	-
当期の収益	-	-
当期の収益以外	-	-
翌期繰越分配対象額	1,000円	1,000円

(注1) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

# 今後の運用方針

## ■当ファンド

今後も、外国投資信託証券への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

## ■TCWファンズⅡ－TCWテーマローテーション株式ファンド

米国、中国を中心に景気への警戒感は続いており、世界の株式市場は景気後退を一時織り込む水準となるなど神経質な展開が続いています。しかし減速はしているものの、米国を中心とした経済のファンダメンタルズ（基礎的条件）は堅調となっており、企業業績の改善トレンドは失われていないことなどから、今後の景況感は中国の財政拡張等が寄与することにより底打ちしていくと考えています。特に米国において、インフレ動向が良好な水準で落ち着いており、金融政策が柔軟なスタンスに変更されたことは世界の株式市場を支える重要な要素であると判断しています。

一方で、米中対立の行方はまだ混沌（こんとん）としており、これらの懸念が解消されるには時間がかかると考えられます。当面は投資家の慎重な姿勢が継続し、一時的には金融市場に下押し圧力がかかる可能性やボラティリティ（価格変動性）の拡大に注意が必要になると考えていますが、基本シナリオではいずれも大きな混乱となるような事態にはならず、経済への影響を抑えるべく徐々に収束を図っていくと見込んでいます。

このような環境下、当ファンドでは株価成長が期待できる魅力的な投資テーマの選定を行います。

## ■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざします。



# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

### ■組入ファンド

	第12期末 2019年2月12日
T CWファンズⅡ－T CWテーマローテーション株式ファンド	98.2%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

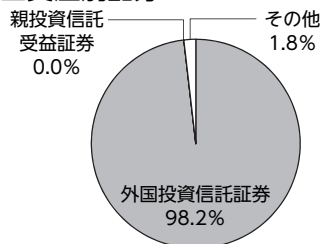
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

### ■純資産等

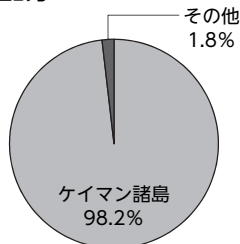
項目	第11期末 2018年11月12日	第12期末 2019年2月12日
純資産総額	515,366,963円	544,451,993円
受益権総口数	487,724,707口	549,547,990口
1万口当たり基準価額	10,567円	9,907円

(注) 当作成期間（第11期～第12期）中における追加設定元本額は222,670,958円、同解約元本額は51,054,185円です。

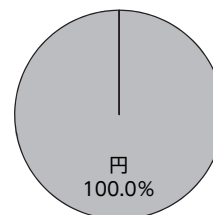
### ■資産別配分



### ■国別配分



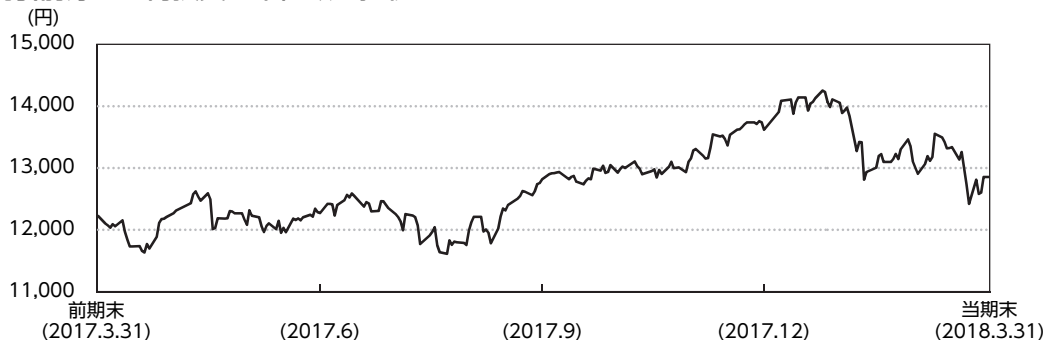
### ■通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2019年2月12日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

## TCWファンズⅡ－TCWテーマローテーション株式ファンドの概要

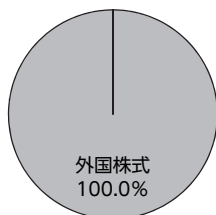
### ■ 税引前分配金再投資基準価額の推移



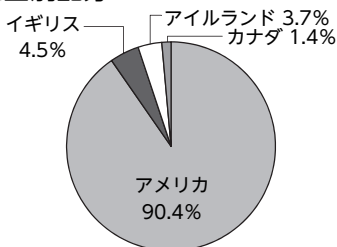
### ■ 上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
salesforce.com, inc.	米ドル	3.4%
Caterpillar Inc.	米ドル	3.3
XPO Logistics, Inc.	米ドル	3.0
Alphabet Inc. Class C	米ドル	2.7
Old Dominion Freight Line, Inc.	米ドル	2.6
Facebook, Inc. Class A	米ドル	2.6
SVB Financial Group	米ドル	2.6
Aptiv PLC	米ドル	2.5
Norfolk Southern Corporation	米ドル	2.4
Microsoft Corporation	米ドル	2.3
組入銘柄数		49

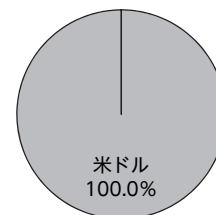
### ■ 資産別配分



### ■ 国別配分



### ■ 通貨別配分



(注1) 税引前分配金再投資基準価額の推移は、外国投資信託証券の直近の決算期のものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

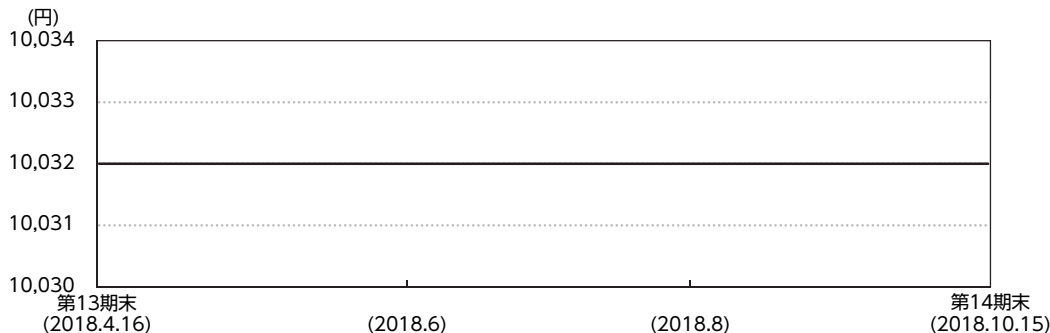
(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、外国投資信託証券決算日（2018年3月31日現在）のものであり、比率は外国投資信託証券の組入株式等に対する評価額の割合です。なお、国別配分はTCWアセット・マネジメント・カンパニーの分類によるものです。

(注3) 1万口当たりの費用明細は、入手が困難であるため記載していません。

(注4) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の投資有価証券明細表をご参照ください。

## ニッセイマネーマーケットマザーファンドの概要

### ■ 基準価額の推移



### ■ 上位銘柄

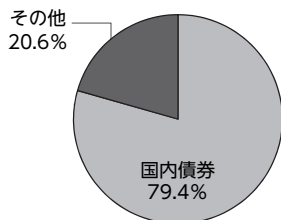
銘柄名	通貨	比率
第328回 大阪府公募公債	円	20.0%
平成26年度第1回 福岡市公募公債(5年)	円	19.8
第28回 兵庫県民債	円	19.8
第13回 京都市京都浪漫債	円	19.8
組入銘柄数		4

### ■ 1万口当たりの費用明細

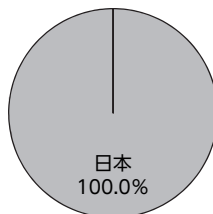
2018.4.17~2018.10.15

項目	金額
その他費用 (その他)	0円 (0)
合計	0

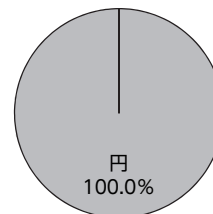
### ■ 資産別配分



### ■ 国別配分



### ■ 通貨別配分



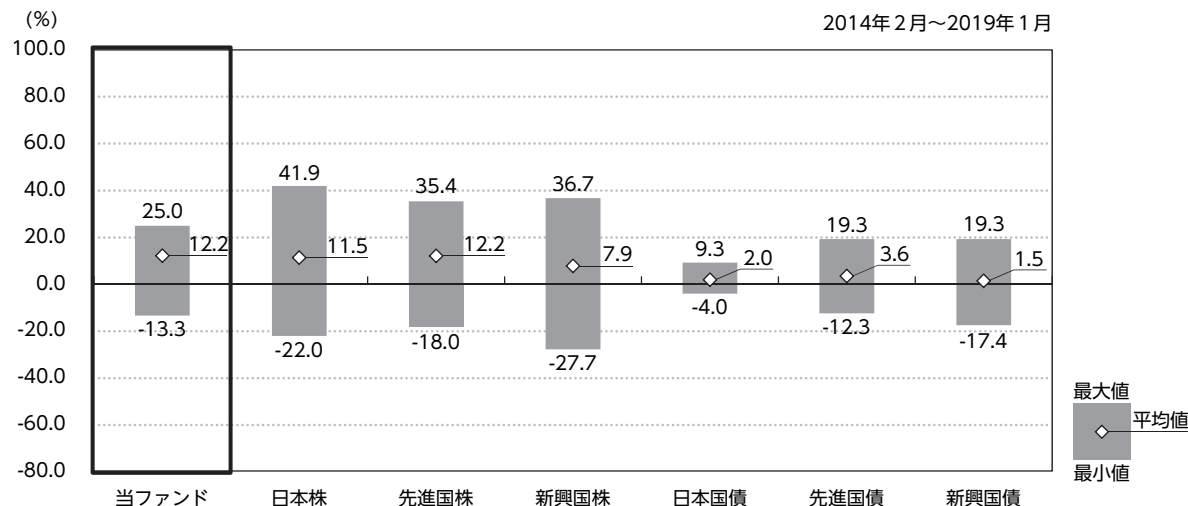
(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日（2018年10月15日現在）のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の組入有価証券明細表をご参照ください。

参考情報

■代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- (注1) 上記は、当ファンドの騰落率（税引前分配金再投資基準価額騰落率）と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。
- (注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。
- (注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年分に満たないため、実在するデータのみの記載となっています。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

<代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数>

- 日本株・・・TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
  - 先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
  - 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
  - 日本国債・・・NOMURA-BPI 国債
  - 先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
  - 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）
- ・すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし（対円）」の指数を採用しています。

- ・TOPIX（東証株価指数）は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX（東証株価指数）の商標または商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- ・MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・NOMURA-BPI 国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- ・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイドは、JPモルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

# お知らせ

## ■自社の実質保有比率

2019年1月末現在、当ファンドの主要投資対象であるニッセイマネーマーケットマザーファンドの信託財産において、当社は、当該マザーファンド受益証券を他のベビーファンドを通じて実質的に99.1%保有しています。当該実質保有分は、当社により他のベビーファンドを通じて解約されることがあります。

# 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式	
信 託 期 間	2016年2月26日～2021年2月12日	
運 用 方 針	外国投資信託証券への投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場している株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。	
主要運用対象	ニッセイ米国株 テーマローテーション ファンド(3ヵ月決算型)	「TCWファンズⅡ-TCWテーマローテーション株式ファンド」 および「ニッセイマネーマーケットマザーファンド」
	TCWファンズⅡ-TCW テーマローテーション 株 式 フ ァ ン ド	米国の金融商品取引所に上場している株式
	ニッセイマネーマーケット マザーファンド	円建ての短期公社債および短期金融商品
運 用 方 法	<p>以下の様な投資制限のもと運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</li> <li>・外貨建資産への直接投資は行いません。</li> <li>・株式への直接投資は行いません。</li> </ul>	
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。	